

(日置郡郡山町大字東俣字湯屋原)

位置と環境

本遺跡は、町の中心部から東側へ約3kmのところ
に所在し、甲突川水系の一つである川田川と湯屋川
によって形成された扇状地の北東側に延びる標高約
136mの微高地上に立地している。

調査の経緯

平成9年度に鹿児島県は、町東部地区において中
山間地域総合整備事業を計画し、町教育委員会が県
教育委員会の協力を得て分布調査を実施した。その
結果、予定区域内に遺跡の所在が確認された。その
後、平成10年には、鹿児島県（農政部）の委託を受
けて、県教育委員会の協力により町教育委員会が調
査主体となって確認調査を行った。その後の協議の
結果、平成11年度と平成12年度において本調査を実
施した。調査対象面積はH11年が約4,600㎡、H12
が約2,718㎡である。

遺構と遺物

平成11年度と平成12年度の調査では、アカホヤ火
山灰層の下から縄文時代早期の遺構と遺物が、アカ
ホヤ火山灰層の上面からは縄文前期・弥生時代・古
代・中世の遺構や遺物が発見された。

縄文早期の遺構は、集石5基（第3図）が検出さ
れた。遺物は、吉田式土器（第4図1・2）・石坂式
土器（第4図3・4・5）・中原式土器（第4図6）・
政所式土器・押型文土器・無文土器・手向山式土器・
塞ノ神式土器などが出土し、石鏃・石匙・スクレイ
パー・石錐・磨石・石皿などの石器がみられた。

縄文前期の遺構は、竪穴状遺構1基（第2図）、
集石6基が検出された。遺物は、轟式土器・曾畑式
土器・深浦式土器などが出土し、石鏃・石匙・スク
レイパー・磨製石斧・磨石・石皿などの石器が出土
した。

弥生時代の遺構は、検出されなかったが、わずか
に残った遺物包含層から壺形土器1点と甕形土器2
点が出土した。

古代から中世の遺構、土坑1基、掘立柱建物跡16
棟が検出された。遺物包含層は削平されていたが、



第1図 湯屋原遺跡の位置

旧水田層や建物の柱穴から成川式土器、土師器、須
恵器、内黒土師器、墨書土器、龍泉窯系青磁、染付
が出土した。

特徴

特筆すべきことは、縄文早期を代表する吉田式
土器の中でも新しい時期と考えられるタイプの土器
が比較的まとまって出土していること。同じ早期の
石坂式土器の中でも比較的新しいとされる口縁部に
瘤を有するタイプの土器がまとまって出土してい
ることである。また、中九州を中心として出土する中
原式土器が、本遺跡でまとまって出土しており、こ
のことは南九州地域と外部との交流を考える上でも
重要な遺跡であり、注目されるものである。

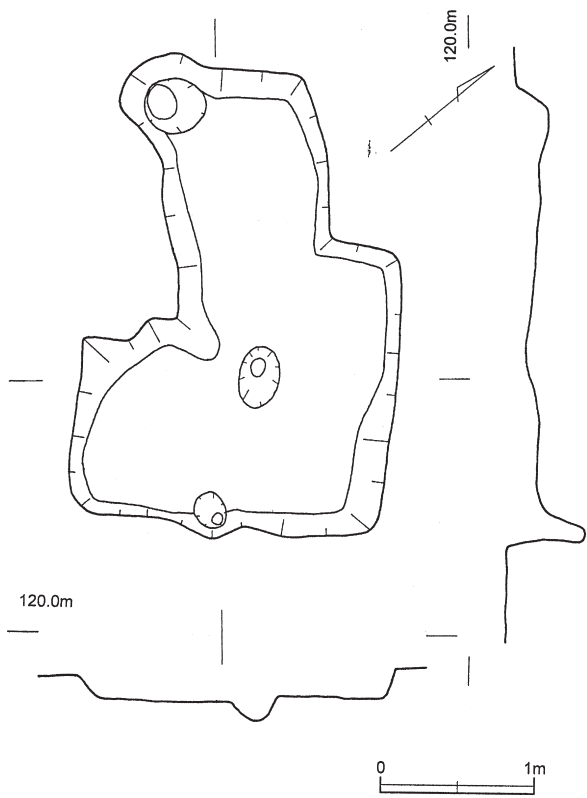
資料の所在

出土して遺物は、郡山町教育委員会に保管されて
いる。

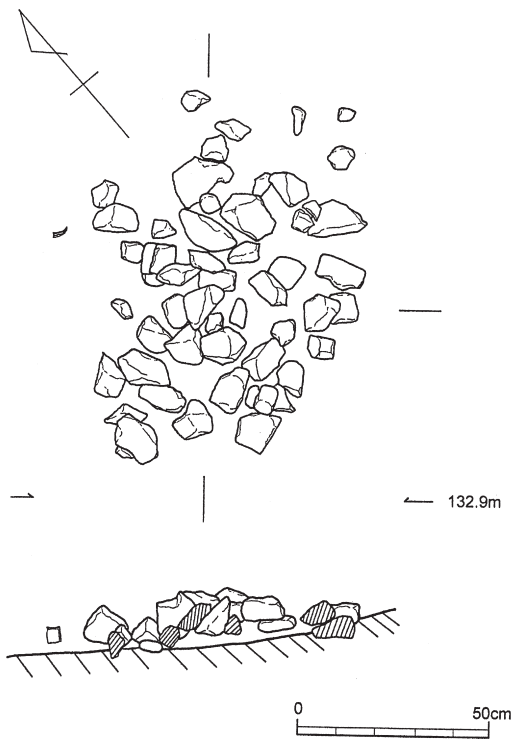
参考文献

郡山町教育委員会2003「湯屋原遺跡」『郡山町埋蔵
文化財発掘調査報告書』2

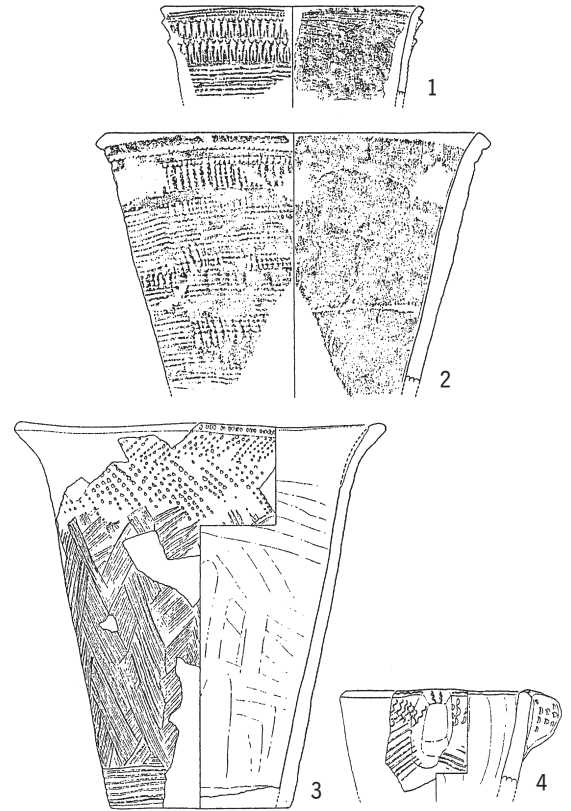
(有川孝行)



第2図 竖穴状遺構



第3図 集石遺構



第4図 出土遺物